「話すこと［発表］」の論理性を向上させる高等学校英語科指導の在り方

－統合的な言語活動を積み重ねる単元構想の工夫を通して－

長期研究員　野 田　友里恵

《研究の要旨》

本研究では，高等学校英語科における，「話すこと［発表］」の領域において，「筋の通った簡単な文章を作ることができる」（ＣＥＦＲ　Ｂ１レベル相当）生徒を育成するため，三角ロジックの考え方などを指導過程に取り入れ，統合的な言語活動を積み重ねる単元構想の工夫をした。その結果，発表内容の論理性が向上し，筋の通った簡単な文章を作ることができる生徒の増加につながった。

Ⅰ　研究の趣旨

外国語の運用能力を測る国際基準ＣＥＦＲ※1に則り，「第４期教育振興基本計画」(文部科学省,2023閣議決定)では,高等学校卒業段階でＣＥＦＲ　Ｂ１レベル相当以上の英語力を有する高校生の割合を３割以上にすることを目指すとある。ＣＥＦＲ　Ｂ１レベルでは，「筋の通った簡単な文章を作ることができる」力が求められている。

また，高等学校学習指導要領解説英語編においては，文法などの言語材料を言語活動と関連付けて，実際のコミュニケーションにおいて一層効果的に活用できる技能を身に付けることが，改訂の要点に示されている。そのため，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて適切に用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝えることのできる能力の育成が，目標として掲げられている。しかし，これまでの自身の授業を振り返ると，聞いたり読んだりしたことの概要や要点，詳細を捉えるインプット活動に多くの時間を充てる一方，情報や考え，気持ちなどを詳しく話したり書いたりして伝える又は伝え合うアウトプット活動を満足に行うことができていなかった。

令和５年度全国学力・学習状況調査の中学校英語において「話すこと」の平均正答率は，その他３技能の４分の１程度の数値にとどまっており，特に「話すこと［発表］」では平均正答率が4.2%と，五つの領域※2の中で最も低いことが分かる。学習指導に当たっては，複数の領域を統合した言語活動（以下，統合的な言語活動）を通して，聞いたり読んだりしたことに対して自分の考えをもつことができるように指導することが大切であると示されている。

これらのことから，「話すこと［発表］」の領域において，順序立てて分かりやすく表現したり，具体例を挙げたりするなどして，論理の矛盾や飛躍がなく，論理の一貫性に注意しながら話す場面を取り入れた授業への改善が必要だと言える。

そこで，本研究では，「話すこと［発表］」の領域において，「自分の主張についての根拠となる，事実とその理由付けを基に考えをまとめていること」を論理性の定義とし，論理性の向上により筋の通った簡単な文章※3を作る能力の育成を目指す。そのために，論理性を意識させるための視点を明確にし，統合的な言語活動を通して，インプット活動で得た学びを，論理性に注意してアウトプット活動につなげるプロセスを構築していく。

※１　Common European Framework of Reference for Languages の略称。外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠。

※２　「聞くこと」「読むこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」「書くこと」の五つ。

※３　筋の通った文章とは，主張と根拠が首尾一貫した内容であるものとする。本研究では，主張に対する根拠として，事実と理由付けに着目する。

Ⅱ　研究の概要

１　研究仮説

単元指導の過程において，以下の視点を取り入れて単元構想を工夫すれば，「話すこと［発表］」における論理性を向上させることができるだろう（**図１**）。

【視点１】論理性を意識させるための視点の明確化

【視点２】論理性を向上させるための統合的な言語活動

〈手立て〉①帯活動としての継続的なスモールトークの実施

②スキャフォールディング（足場かけ）による支援

③他者と幅広く意見交換ができる場の設定

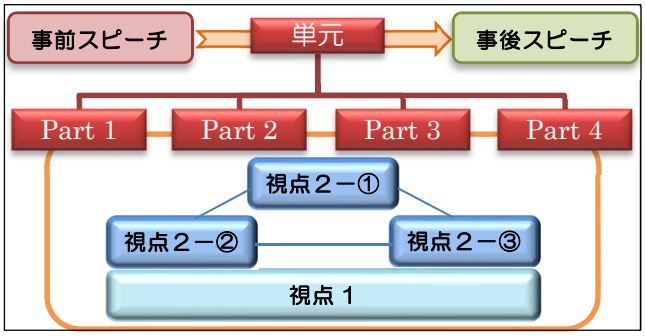


図１　単元構想（１単元）のイメージ

２　研究の内容

(1)【視点１】論理性を意識させるための視点の明確化

論理性を意識した文章を作るための方法として，三角ロジック※4の考え方を取り入れる（**図２**）。

本研究では，生徒自身が自分の考えに足りない要素に気付き，試行錯誤を繰り返しながら論理性を向上させていくことができるようにする。そのため，教師が常に三角ロジックに基づいた文章作りを意識させ，生徒が自分の発話を振り返ったり，不足している要素を補ったりしながら，論理性を意識した文章の作り方を身に付けるようにする。

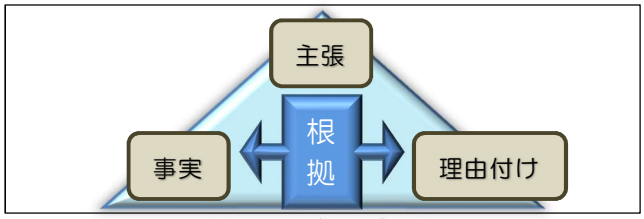


図２　三角ロジック

※4　イギリスの哲学者 Stephen E. Toulmin（1922-2009）によって提案された論証モデル「トゥールミン・モデル」に基づき，主張，事実，理由付けを完成させれば，自分の考えを相手に理解してもらえるとする論証パターンの基本形。自分の主張に対し，対立意見や反駁を加える対話型論証の基盤にもなっている。

(2)【視点２】論理性を向上させるための統合的な言語活動

生徒が教科書での学び（インプット活動）を生かし，聞いたり読んだりしたことに対して自分の考えをもち，その内容について論理性に注意して詳しく話して伝える（アウトプット活動）プロセスを構築する。

①　帯活動としての継続的なスモールトークの実施

生徒が毎時間の授業冒頭に取り組むスモールトークで，自分の考えに根拠を挙げながら話すことに慣れる。まず，教師から与えられるテーマについて，１分間話す内容を整理した後，１分以内で根拠を挙げながら自分の考えを述べる。次に，回数を重ねるにつれて発話語数や発話時間等の条件を達成できるよう意識して取り組むことで，多様な語句や文を使った文章を話せるようにする。その際，１人１台端末を用いてペアで話す様子を撮影し合い，撮影後その動画を Google Classroom 上で提出する。そして，生徒が自身の成長過程を振り返ることができるよう，教師は提出された動画を使ってデジタルポートフォリオを作成し，フィードバックのコメントも付加する。

②　スキャフォールディング（足場かけ）による支援

生徒が自分の考えを裏付ける活動を行う。ここでは特に，事実を見付け，単元全体を通して一つの話題に関する学びを深めるために，スキャフォールディング（足場かけ）によって，教科書であまり詳しく触れられていない情報を補完する。生徒は，教師から提示される関連データや動画，海外ニュースを見たり聞いたりして，情報を整理する。その際，他者と協働して内容を掘り下げ，互いに意見を出し合ったり感想を述べ合ったりする。そして，これらの活動を通して学んだことを，いつでも振り返ることができるよう，１枚ポートフォリオ評価シート（**図３**）に記入する。

図３　１枚ポートフォリオ評価シート

③　他者と幅広く意見交換ができる場の設定

生徒が自分の考えをより具体化する活動を行う。ここでは特に，理由付けの検討材料とするために，他者と幅広く意見交換をする。まず，意見交換において，自分と同じ考え方を知ることで，自分の主張に自信が生まれ，自分では思いつかなかった理由を見いだす。また，自分と異なる考え方を知ることで，自分の主張により強い説得力をもたせるための理由を考えたり，自分の主張を見直して別な角度から新たな主張を組み立てたりする。次に，他者の意見を踏まえた上で自分の考えを検討し直すことで，自分の考えを簡潔にまとめ，これまでの自身の体験などと関連付けながら根拠を具体化する。その際，ペアやグループで意見交換をするだけでなく，１人１台端末を活用することでより多くの考えを共有して参照し合い，比較・検討する。

３　研究の実際

対象生徒	第２学年39名（１学級）
授業実践Ⅰ	総合英語Ⅱ（10時間）
単元名	Lesson 2 Aren’t You Sleepy? ［題材：（日常的な話題）睡眠］
授業実践Ⅱ	総合英語Ⅱ（11時間）
単元名	Lesson 5 The Era of Beautiful Harmony ［題材：（社会的な話題）元号］

本稿では，授業実践Ⅱについて述べる。授業実践Ⅱでは，上記視点の実践前後に事前及び事後スピーチを実施し，発表内容における論理性を比較した。

事前及び事後スピーチのテーマは以下の通りとし，それぞれのスピーチにおいて３分間話す内容を整理した後，３分以内で自分の考えを述べさせた。

> What is important to make a “Beautiful Harmony” nation?（“令和”な国を作るために大切なことは何か？）

(1)【視点１】について

事前スピーチ後,三角ロジックの考え方を取り入れた。実際にスピーチのテーマに置き換えて，自身のスピーチが３要素を含んでいたか振り返りをしたところ，生徒は主張が不十分なまま根拠を述べようとしていた。その後の授業では，常に三角ロジックの３要素を含んでいるかどうかを確認しながら文章を作ったことで，三角ロジックという考え方を使った文章の作り方が明確になった。一方で，根拠となる事実と理由付けを区別することは難しく,本研究では最低限どちらか片方が含まれていれば,それを主張に対する根拠とみなすことにした。【視点１】の結果，図４に示す変容が見られた。

事前スピーチ

It is important to make a beautiful harmony nation. I think two reason. First, we clean my city because to clean is very beautiful. Second, we help us because to help is beautiful things. So, we help us.

⇒“何が”大切か（主張）が述べられていない

事後スピーチ

I think that we should want to aim of world peace like Heisei. I have two reason. First, Heisei is more beautiful than Reiwa. In fact, Heisei don’t happen war in Japan. Second, when world is peace, war don’t happen. So, I want to aim of world peace.

※下線は主張，波線は根拠（事実や理由付け）を示す

図４　生徒のスピーチ例

(2)【視点２－①】について

帯活動としてスモールトークを実施した。最初はキーワードとなる語句を答えて終わってしまう生徒もいたが，教師が示す回答例を参考に，回答の仕方を真似して答えることで，多様な語句や文を使って簡単な文章を話すことができる生徒が増えた。複数の生徒から「文の構成を考えながら話せるようになった」という感想があり，自分の考えに必ず根拠を挙げながら話すことを意識したり，デジタルポートフォリオ（図５）で振り返ったりしながら発話内容を精選した。

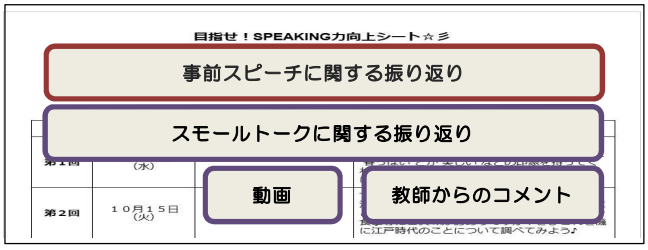


図５　デジタルポートフォリオの活用例

(3)【視点２－②】について

修学旅行で訪問した場所を元号順に並び替えながら当時の歴史について学んだり，現在の元号へ改元された当時の様子を記録した動画や海外ニュースを視聴したりした。訪問先を元号順に並び替えたことで，過去に数多くの元号が存在していた事実に気付くことができたと同時に，動画や海外ニュースを視聴したことで，改元に至った経緯や，元号に込められた考案者たちの思いも詳しく理解することができた。

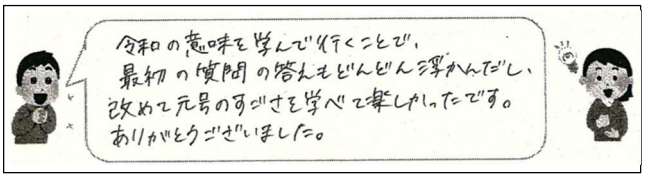


図６　単元の振り返りで生徒から寄せられた感想

図６より，これまでは教科書を読んで，なんとなくで終わらせていた内容理解が，単元全体を通して様々な角度から考えを巡らせたことで，一つの話題に関する学びを深めるとともに,自分の考えを裏付けることができた。

また，生徒は新たな学びや気付きを１枚ポートフォリオ評価シートにまとめたことで,「授業の大事な部分を振り返るのに便利だ」ということが分かり，適宜必要な情報を検索し,振り返る手段として活用することができた。

(4)【視点２－③】について

二つの統合的な言語活動において，ペアやグループだけでなく，１人１台端末を活用し，多くの生徒と幅広く意見交換をした。

一つ目の文法事項を使った言語活動においては，与えられた英文を自分事として捉え，これまでの自身の経験などと関連付けながら，根拠を具体化した英作文を完成することができた（図７）。

X高を目指したあの頃・・・Googleスプレッドシート	
お題	I entered X High School, where～.
出席番号	where～のうしろに入る言葉を考え、英文を完成させましょう！
	I joined the student council.
	I work hard at my club activities every day.
	I studied English.

図７　文法事項を使った言語活動

二つ目の新元号案を考案する言語活動においては,「元号を考える大変さを知ることができた」や「みんなの考える元号に個性があって面白かった」という感想もあり，自分では思いつかなかった理由を見いだしたり，別な角度から自分の主張を見直したりすることができた。自分と同じ考え方や異なる考え方にとらわれず，生徒同士が互いの考えを参照し合い，他者の意見を踏まえた上で自分の考えを再検討することができた。

Ⅲ　研究のまとめ

１　検証と分析

(1) 検証方法

事前及び事後スピーチを実施する前に，生徒へルーブリックを提示し，それに基づいてＪＴＥ（日本人英語教師）２名とＡＬＴ１名で評価を行った。

生徒Ａは事前スピーチで，主張を他人の意見を聞く，根拠を自分のことだけを考えるのは調和と言えない，としていたが，事後スピーチでは，様々な思いが込められた元号の歴史について知ることも重要だと述べていた。

生徒Ｂは事前スピーチで，主張と根拠に一貫性が見られなかったが，事後スピーチでは，一貫性のある主張と根拠を述べられるようになった。

生徒Ｃは事前及び事後スピーチともに，主張と根拠が明確に述べられていなかった（**図８**）。

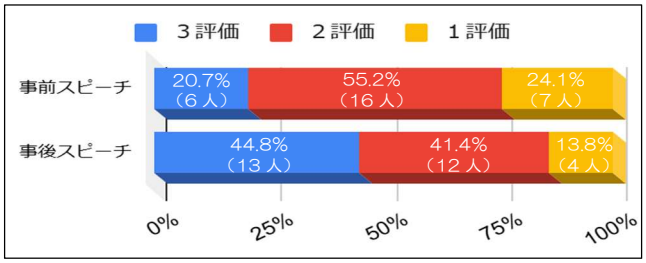
評価	基準	生徒の事後スピーチ例
3	根拠が二つ（以上）	生徒 A（事前スピーチ：**２評価**） I think not thinking about only myself and knowing era history is important to make a beautiful harmony. Thinking about only myself is not connect harmony. Also, name of eras is filled with various thoughts. I think knows era’s thoughts is very important. That is why I think thinking about other’s people and knowing era’s thoughts. 主張①：自分のことだけを考えない ⇒根拠①：調和につながらない 主張②：元号の歴史を知る ⇒根拠②：様々な思いが込められている
2	根拠が一つ	生徒 B（事前スピーチ：**１評価**） Peaceful is important to make beautiful harmony. I have two reasons. First, there were no wars in Japan in the Heisei era. Second, I think that peace will lead to a bright future like the origin of Reiwa. Therefore, peaceful is the most important. 主張：平和な（状態） ⇒根拠：（戦争のない）平和が明るい未来へとつながっていく
1	根拠なし	生徒 C（事前スピーチ：**１評価**） Three important things to create a beautiful harmony country. They are respect, empathy and cooperation. We believe that when we are aware of this harmony is created.

※下線は主張，波線は根拠（事実や理由付け）を示す

図８　ルーブリックの評価に該当する生徒のスピーチ例

(2) 検証結果

単元指導の前後で実施した事前及び事後スピーチにおける論理性を，ルーブリックの評価で比較した（**図９**）。



（有効回答：事前・事後スピーチのみ，無回答を除く29名）

図９　論理性の比較

事前スピーチに比べて事後スピーチでは１や２評価を取る生徒が減り，３評価を取る生徒が倍以上に増えた。カイ二乗検定の結果，有意差は確認されなかったものの（ｐ＞.05），３評価の増加は本研究が論理性の向上につながる可能性を示唆しており，今後も長期的に研究を進めていけばさらなる論理性の向上が期待できる。

【視点１】で論理性を意識させるための視点を明確にし，**【視点２】**で論理性を向上させるための統合的な言語活動を積み重ねることで，発表内容の論理性が向上し，筋の通った簡単な文章を作ることができる生徒の増加につながると考えられる。

２　成果と課題

(1) 研究の成果

単元指導の過程において，本研究で取り上げた視点を含む統合的な言語活動を積み重ねていけば，「話すこと［発表］」における論理性を向上させることが可能な指導過程のモデルを示すことができた。論理性を意識した文章を作るためには，土台となる考え方を一つ取り入れ，それに基づいて様々な言語活動で活用しながら試行錯誤を繰り返し，徐々に自分のスキルとして身に付けていくことが大切である。また，インプットした内容をアウトプットへつなげるためには，様々な情報元から情報や意見を集め，その中から自分の考えをより強固にするために必要なものを取捨選択するとともに，それらを自分の言葉で話す日頃の積み重ねが重要であると分かった。

(2) 今後の課題

本研究では，論理性の向上を目的としたため，英語の正確性よりも論理性の向上に重点を置いた。論理性と併せて正確性も伸ばすことができれば，英語力の伸びを生徒がもっと実感できるだろう。また，三角ロジックの事実と理由付けの区別が難しいという感想が多く寄せられたため，事実は客観的な要素であるのに対して，理由付けは主観的な要素であることにも触れながら，主張に対する根拠の挙げ方を具体的に指導していく必要がある。